第３章　地域別構想

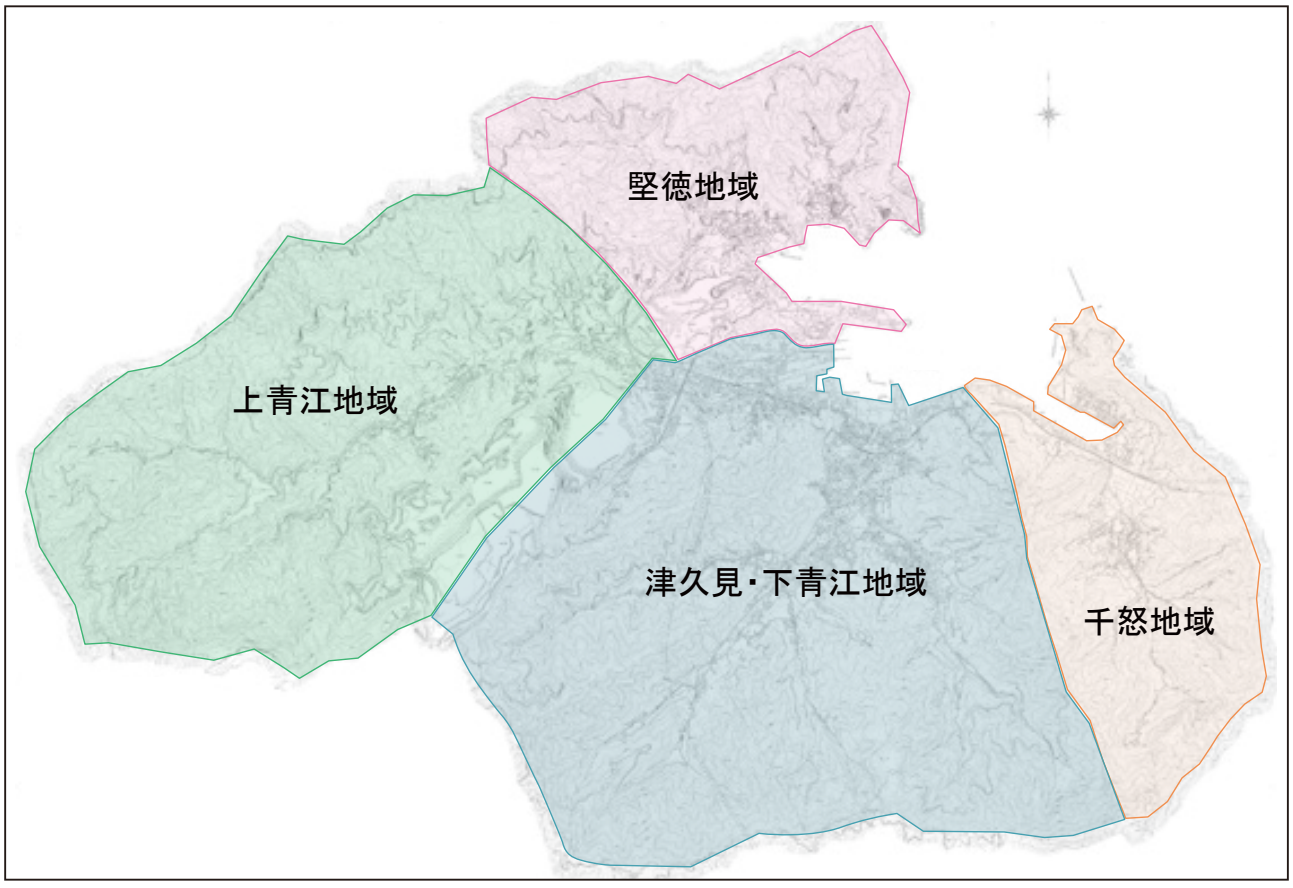
1 地域区分の考え方

新庁舎と街なか観光拠点の一体的整備を機に、JR 津久見駅から概ね半径 1㎞以内の市中心部 (中心市街地) を、新たに本市の都市づくりの拠点となる、にぎわい・活力エリアと位置づけ、さらに、本エリアを「滞在快適性等向上区域」(まちなかウォーカブル区域) とし、街なかへの都市機能、居住の誘導を図り持続可能な都市づくりを目指すこととしています。そして、このエリアを含んでいる「**津久見・下青江地域**」を、本市の都市づくりの核 (中心) と位置づけます。

「**津久見・下青江地域**」は、商業地域、準工業地域に定められたエリアを中心に本市の商工業が発展し、また、ほとんどのエリアが人口集中地区となっており、本市の都市づくりの核 (中心) として、都市施設や居住を誘導し人口維持を図っていく必要があります。

そして、土地区画整理事業が行われ、良好な住環境が広がる地域で、市民病院、総合運動公園等の都市施設が立地している「**千怒地域**」、豊かな自然に囲まれ地域コミュニティが発達し、鬼丸住宅跡地を活用した住宅地造成等で定住促進に期待がかかる「**上青江地域**」、基幹産業である石灰石・セメント関連産業、港湾・工場・鉱山の魅力ある景観、文化財などに囲まれ、国道・市道バイパス開通により生活利便性が向上している「**堅徳地域**」の４つの地域に区分し、全ての地域を、商工業と住宅が混在した、定住・ふれあいエリアと位置づけ、市民の健康で文化的な暮らしの実現を目標とするとともに、各地域を結ぶ交通ネットワークを強化していきます。

地域区分



津久見・下青江地域	岩屋区・宮本区・彦ノ内区・中田区・西ノ内区・警固屋区 入船区・川上区の一部
千怒地域	千怒区
上青江地域	川上区の一部・青江区・川内区・畑区
堅徳地域	徳浦区・堅浦区

この 4 つの地域区分の考え方は、「**津久見・下青江地域**」を都市づくりの核 (中心) とし、周辺の地域を小学校区、地域特性等を踏まえ区分したものですが、さらに、この 4 つの地域と、自然・観光交流エリア (長目、日代･四浦、離島地域) や里山エリアとの結びつき、鉱工業エリアの活用等も鑑み、第 2 章の全体構想を基に、それぞれの地域の特性や課題を踏まえた、まちづくりの将来像と整備方針を次頁以降に示します。

2 津久見・下青江地域

（1）地域の特性

- 埋立事業や土地区画整理事業により、多くの市民が生活する人口集中地域。
- 津久見港埋立地に、津波避難ビル機能や防災拠点としての機能を兼ね備えた新庁舎と日豊経済圏域（大分県南から宮崎県北をエリアとする東九州地域）の広域周遊観光の拠点となる街なか観光拠点の一体的整備を推進。
- 新庁舎・街なか観光拠点をはじめとし、つくみん公園、ＪＲ津久見駅、ホテル・旅館、スーパー、商店、診療所、幼稚園・保育園・認定こども園、小中高等学校、市民図書館、公営住宅等の多くの都市施設や石灰石・セメント産業関連の事業所等が立地。
- 特に、つくみん公園は大分県下でも人気の高い公園。
- 本市を代表するイベントやまちづくり推進事業等で賑わうエリア。
- 市中心部は、平成 29 年台風第 18 号災害にて甚大な被害を受け、現在、津久見川・彦の内川河川激甚災害対策特別緊急事業を実施中。
- 併せて、道路の美装化、新港橋・下岩屋橋の高質化、LED 照明の設置、ポケットパークの整備などにより、景観に配慮した歩いて楽しめるウォーカブルな空間づくりを推進。
- 一般国道 217 号平岩松崎バイパス開通により下青江地域が本市の玄関口となり、移動利便性や児童生徒の通学等の安全性向上に期待。
- 全国で 2 つしかない「セメント町」、国道 217 号の頭上を通る石灰石運搬用のパイプラインや胡麻柄山を望む風景、つくみん公園からの港湾・工場などの魅力的な産業景観。
- 本市の都市づくりの核 (中心) としての発展に期待。

つくみん公園

JR 津久見駅

市民図書館

宗麟公園（大友宗麟公墓）

一般道路と交差するパイプライン

松崎交差点

胡麻柄山

セメント町のバス停

（2）地域の課題

- JR 日豊本線によって市街地が南北に分断されており、車両は幅員狭小で危険踏切を通行するなど利便性・安全性とも不安。
- 津久見港埋立地から中心商店街への誘導動線が必要。中心商店街は、空き地・空き家 (店舗) が増加し人通りも減少。
- JR 津久見駅は、エレベーター等の設置によるバリアフリー化、駅前通りの魅力アップが必要。
- 市中心部（中心市街地）のほぼ全域が津波浸水エリアであり、津波避難ビルを兼ね備えた新庁舎、大友公園への避難ルートの新設の他にも、津波避難場所、ルートが必要。
- 老朽化している、現市庁舎、市公民館、発展的統合後の現津久見市立第二中学校校地等の遊休施設の利活用が課題。
- 公営住宅の長寿命化と民間賃貸住宅の立地、遊休地を活用した住宅地造成等による定住人口維持が重要。
- 津久見市立津久見小学校の老朽化。

（3）将来像と整備方針

本市の都市づくりの核 (中心) となる、「津久見・下青江地域」の将来像として、「津久見の顔となるにぎわいと活力を創造するまちづくり」を掲げ、以下に整備方針を示します。

>> 津久見・下青江地域の将来像

津久見の顔となるにぎわいと活力を創造するまちづくり

1）都市づくりの拠点としての市中心部の整備

- 新庁舎・街なか観光拠点を核とし、「みなとオアシス津久見」エリアを国道 217 号以北の津久見港埋立地全域へと拡大し新たな経済圏として発展させるため、エリア内の移動利便性向上のための車両･歩行者の動線整備、新庁舎･街なか観光拠点の周辺環境整備、つくみん公園の魅力アップ (大型遊具・視点場の設置等)、耐震岸壁や遊休地・施設等の有効活用等の再整備を検討。
- ＪＲ津久見駅や駅周辺のバリアフリー化、（都）駅前線（通称駅前通り) の魅力アップ、金融ゾーン整備等による周遊性の向上。
- 利用頻度が減少傾向にある駅前駐車場の効果的活用に向けた検討。
- 「滞在快適性等向上区域」(まちなかウォーカブル区域) と位置づけ、地域消費の拡大や観光客の増加、健康寿命の増進を目的に、人々が憩い、歩いて楽しめる空間整備を促進。

2）交通ネットワークと都市基盤整備

- 国道 217 号、県道佐伯津久見線の道路機能の維持のための働きかけを強化。
- 岩屋三差路の交差点では、環状交差点（ラウンドアバウト）を導入するなど安心・安全な通学路としての整備を進めている市道岩屋線に加え、国道 217 号と県道佐伯津久見線のアクセスと市中心部の移動利便性向上を目的に、費用対効果を踏まえた上で（都）角崎中田線の整備を検討。
- 一方で、長期間に渡り未整備となっている都市計画道路については、将来的な交通量、人口動態等を踏まえ見直しを検討。
- 新庁舎・街なか観光拠点の整備により、広域周遊観光客の受け入れを視野に入れた新たな公共交通結節点整備を検討。
- 多くの都市施設と居住エリアを効率的につなぐ、地域公共交通体系の構築を検討。
- 住宅地内の生活道路では、歩行者が安心して通行できるよう、歩行者空間の確保やバリアフリー化等、ユニバーサルデザインの考えに基づいた整備を推進。
- 小学校の通学路については、地区や学校関係者等と連携体制を構築し、児童の安心・安全を確保。
- 公営住宅、下水道等の都市インフラの長寿命化を推進するとともに、下水道計画区域外では合併処理浄化槽の普及を促進。
- 公営住宅については子育て世帯等のニーズに合わせたリノベーション等を検討。
- つくみん公園の魅力アップ、つくみん公園と中心商店街をつなぎ休息・イベント等での活用が見込まれる角崎公園、大友町側からの避難ルートを新設し災害時の避難場所として活用する大友

公園、歴史を伝える拠点である宗麟公園等、特色ある公園の適正な管理を推進。
- 一方で、利用者の少ない公園は、管理手法等の見直しを検討。
- 津久見市立津久見小学校の長寿命化改修工事を検討。

3）都市防災

- 津波避難ビル機能や防災拠点として整備する新庁舎に加え、大友公園に隣接した用地に展望台広場を整備し、そこに至る避難ルートを新設。
- 津波、高潮、河川氾濫、土砂災害等の自然災害に備えた避難所・避難路の整備と合わせ、避難所表示や避難誘導標表示等設置の対策を強化。
- 浸水エリアにおける住宅や事務所新築の際の用地嵩上げを支援。
- 砂防、急傾斜地、河川などの整備を関係機関に働きかけ計画的な整備を促進。
- 自主防災組織による防災訓練、防災知識の普及・啓発等の活動を支援。
- 危険な空家等については、「空家等対策の推進に関する特別措置法」等に基づく取組を強化し早期の除却を推進。
- 発展的統合後の津久見市立第二中学校校地の活用等による、下青江地域の災害避難場所・ルートの再構築。

4）遊休地（市有地・民有地）・施設等の利活用

- 新庁舎・街なか観光拠点の一体的整備を機に、周辺の遊休地の利活用について、所有者の意向や将来展望等を十分把握する中で検討。
- 令和 6 年 4 月開校予定の新設中学校への発展的統合を目指している、現津久見市立第二中学校において、市公民館機能の移設や生涯スポーツの利用促進、防災機能の設置など、幅広い視点で校地の有効活用を検討。
- 老朽化が著しい現市庁舎や市公民館は、住民ニーズ等を的確に把握する中で事業所や住宅等としての活用可能性を検討。
- 民間賃貸住宅建設の促進、遊休地を活用した住宅地造成を検討。

5）空き地・空き家（店舗）の利活用

- 特に商業地域での空き地・空き家 (店舗) を活用した若者によるチャレンジショップ等の新規創業の促進。
- 空き地バンク制度の新設により土地利用を促進。

6）自然・産業景観の活用

- セメント町、本市の基幹産業である石灰石・セメント産業の象徴的な石灰石運搬用のパイプラインや胡麻柄山を望む風景、つくみん公園からの港湾・工場などの魅力的な産業景観の活用。
- つくみん公園や大友公園から見える工場夜景、津久見川周辺に整備予定のライトアップなど、日中とは違った楽しみ方の出来る景観の活用。
- 本市のシンボルとなる新庁舎の特色あるデザインの PR と活用。

- 中心市街地を一望できる大友公園と、その隣接用地に整備予定の展望台広場を合わせた一体的利活用の促進。
- 歴史・文化的景観である、キリシタン大名大友家 21 代義鎮 (宗麟) ゆかりの地として今も残る大友宗麟公墓の PR と保全。
- 津久見川・市民図書館周辺の魅力アップによる景観形成。

7）住民主体のまちづくり

- 市中心部のまちづくりを目的に実施してきた、住民参加ワークショップや、つくみん公園・中心市街地内での社会実験（コンテナ 293 号・Cafe1/2 等）に携わってきた方々が、現在も実践する地域活動への継続的な支援。
- 防災意識の向上を目指して作成した「スイーツ×防災マップ」の積極的 PR と活用。
- 彦ノ内区や中田区で行われているアジサイ等の植樹活動を支援。
- ミカン栽培の歴史を生かし、ファーマーズスクール（新規就農者の研修制度）などを活用した就農支援。
- 地区社協、自主防災組織、防犯パトロールや交通安全などの活動により、安心・安全なまちづくりを推進。

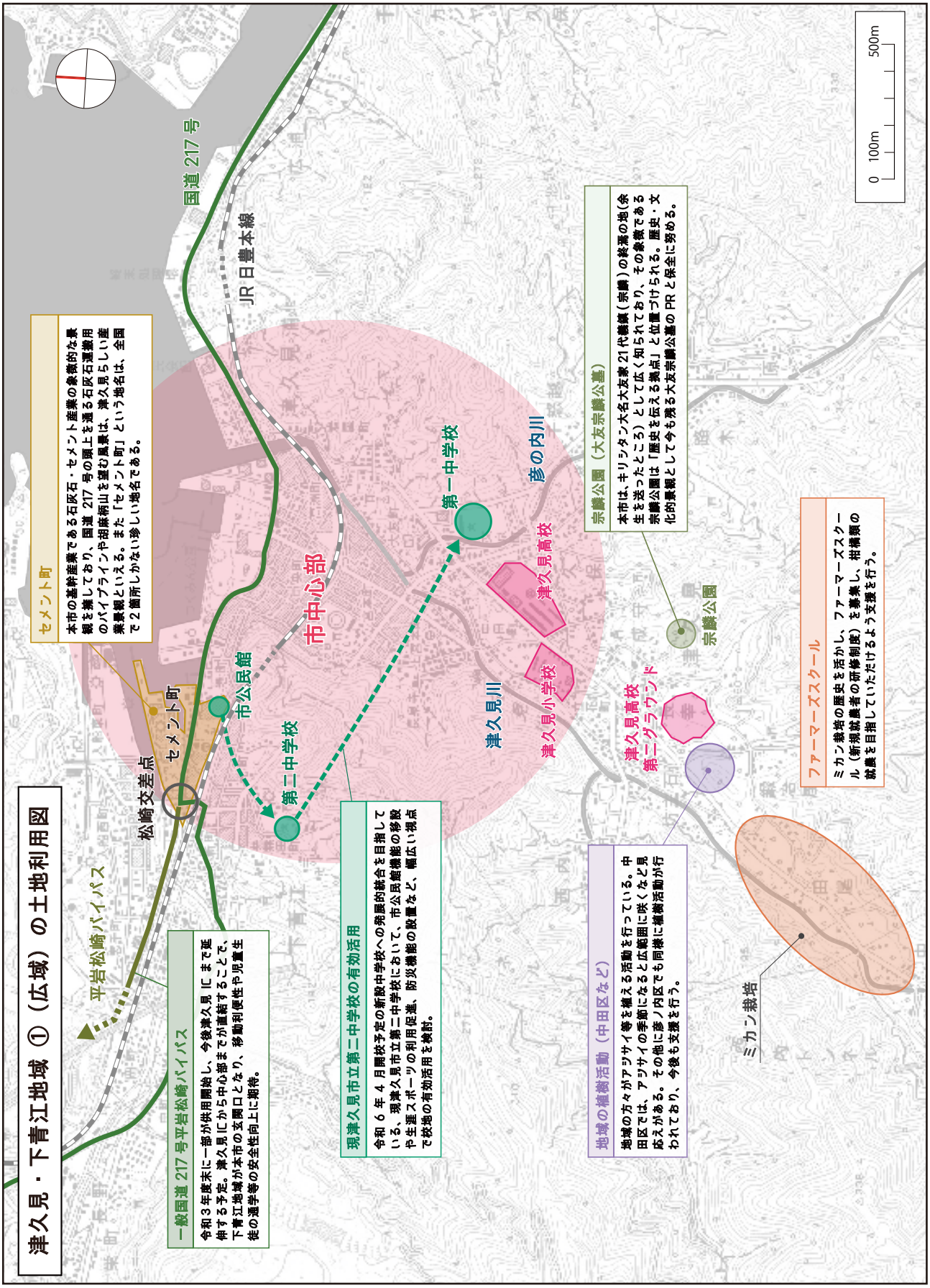
住民参加ワークショップの様子

コンテナ 293 号（つくみん公園）

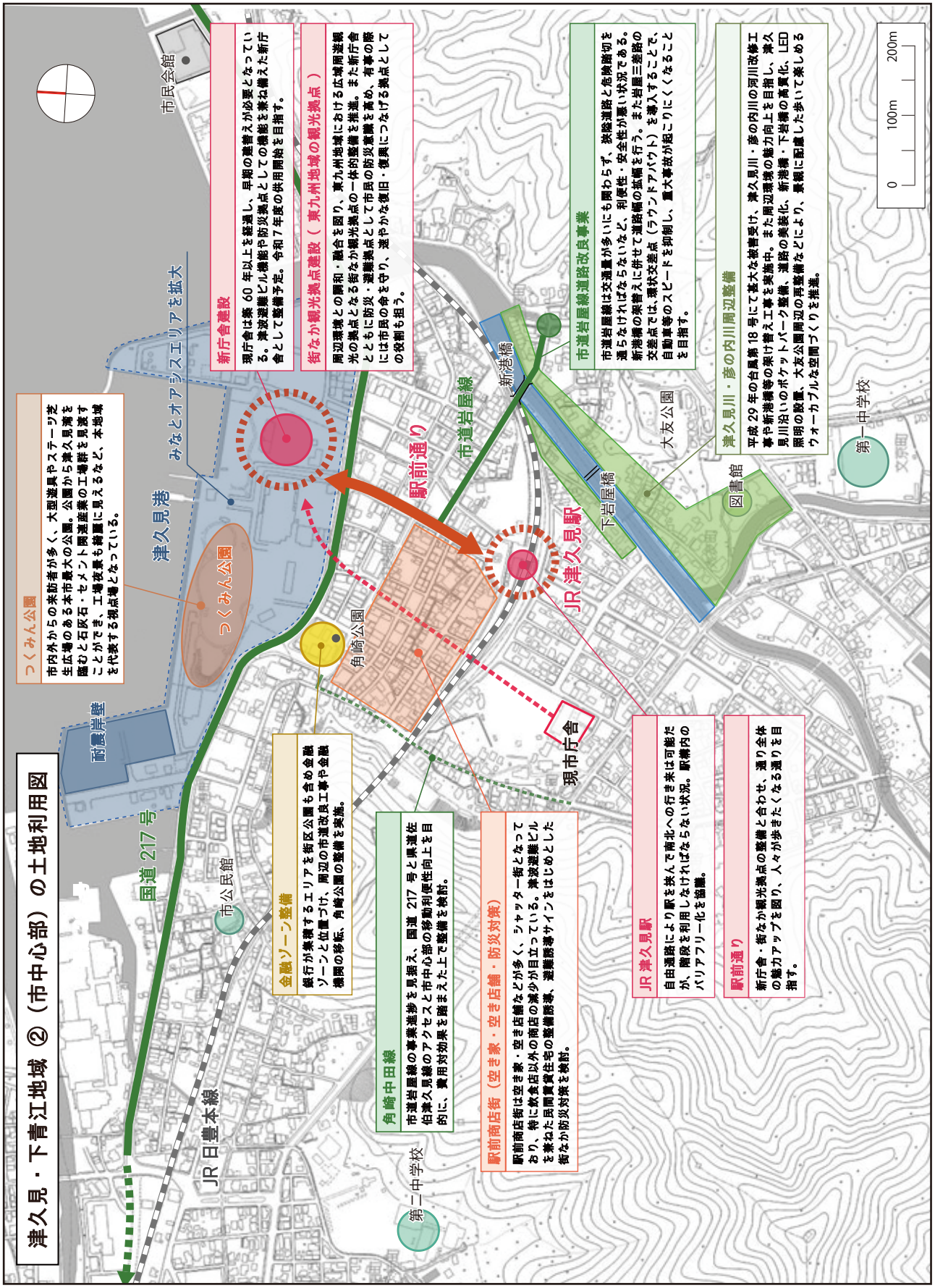
スイーツ×防災マップ

ミカン栽培

津久見・下青江地域の土地利用図 ①（広域）



津久見・下青江地域の土地利用図 ②（市中心部）



3 千怒地域

（1）地域の特性

- 埋立事業や土地区画整理事業によって整備され、閑静で落ち着いた居住環境が広がる地域。
- 市中心部や JR 日代駅が位置する日代地区等の近接地域へのアクセス性が良好。
- 津久見中央病院、介護老人保健施設、グループホーム、医療施設、総合運動公園、商業施設等の都市施設の立地による高い生活利便性。
- 都市施設の立地による高い生活利便性の観点から、日代・四浦地域住民の生活拠点としての役割に期待。

国道 217 号千怒日見バイパス

住宅地の様子

津久見中央病院

千怒地域の市街地の様子

（2）地域の課題

- 土地区画整理事業が行われていない地域は古い家や空き家が立ち並び、狭隘な道路で危険な箇所が多く存在。
- 災害時などの避難場所となっている千怒小学校付近は、地区内道路が狭隘なため、緊急車両の通行も困難な状況。
- 埋立事業と土地区画整理事業により、新しいまちが創造され閑静で落ち着いた居住環境が整備された反面、地域住民相互のつながりやコミュニティ形成がやや不安。
- 長きにわたり 1 区 1 校区の小学校として発展してきた津久見市立千怒小学校の老朽化。

（3）将来像と整備方針

良好な住居地域が形成され、市中心部との地区間のつながりを重視した都市計画が求められている「千怒地域」の将来像として、「街なかと連結した住み心地のよいまちづくり」を掲げ、以下に整備方針を示します。

>> 千怒地域の将来像

街なかと連結した住み心地のよいまちづくり

1）交通ネットワークと都市基盤整備

- 国道 217 号の道路機能の維持のための働きかけを強化。
- 市中心部へのアクセスや災害時の避難、啓開ルートとして千怒越トンネルを活用し、利便性と防災性の高い良好な住宅地を形成。
- 津久見中央病院を中心としたエリアに都市機能を集積することで、市中心部とのつながり、日代・四浦地域住民の生活拠点としての役割を強化。
- 津久見中央病院は本市全域の医療を担っている重要な拠点施設であり、路線バス、コミュニティ交通等の公共交通ネットワークにより他地域との連携をさらに強化。
- 住宅地内の生活道路では、歩行者が安心して通行できるよう、歩行者空間の確保やバリアフリー化等、ユニバーサルデザインの考えに基づいた整備を推進。
- 小学校の通学路については、地区や学校関係者等と連携体制を構築し、児童の安心・安全を確保。
- 長期間に渡り未整備となっている都市計画道路については、将来の人口動態、交通量等を鑑み、整備方針の見直しを検討。
- 総合運動公園の適正な維持管理とスポーツ交流や健康増進等による利用を促進。
- 多くのメダカが生息する湧水めだか公園は管理体制を見直し、今後とも地域住民の憩いの場として適正に保全。
- 一方で、利用者の少ない公園は、管理手法等の見直しを検討。

- 公営住宅、下水道等の都市インフラの長寿命化を推進するとともに、下水道計画区域外では合併処理浄化槽の普及を促進。
- 津久見市立千怒小学校の長寿命化改修工事を検討。

2）都市防災

- 津波、高潮、河川氾濫、土砂災害等の自然災害に備えた避難所・避難路の整備と合わせ、避難所表示や避難誘導標表示等設置の対策を強化。
- 浸水エリアにおける住宅や事務所新築の際の用地嵩上げを支援。
- 砂防、急傾斜地、河川などの整備を関係機関に働きかけ計画的な整備を促進。
- 自主防災組織による防災訓練、防災知識の普及・啓発等の活動を支援。
- 危険な空家等については、「空家等対策の推進に関する特別措置法」等に基づく取組を強化し早期の除却を推進。

3）遊休地（市有地・民有地）・施設等の利活用

- 市有地を活用した、事業誘致、住環境整備の促進。
- 土地区画整理事業の保留地の販売促進と有効活用。

4）空き地・空き家（店舗）の利活用

- 空き家情報バンク制度への登録促進と住宅改修や家財処分等の支援の充実による空き家（店舗）の利活用を促進。
- 空き地バンク制度の新設により土地利用を促進。

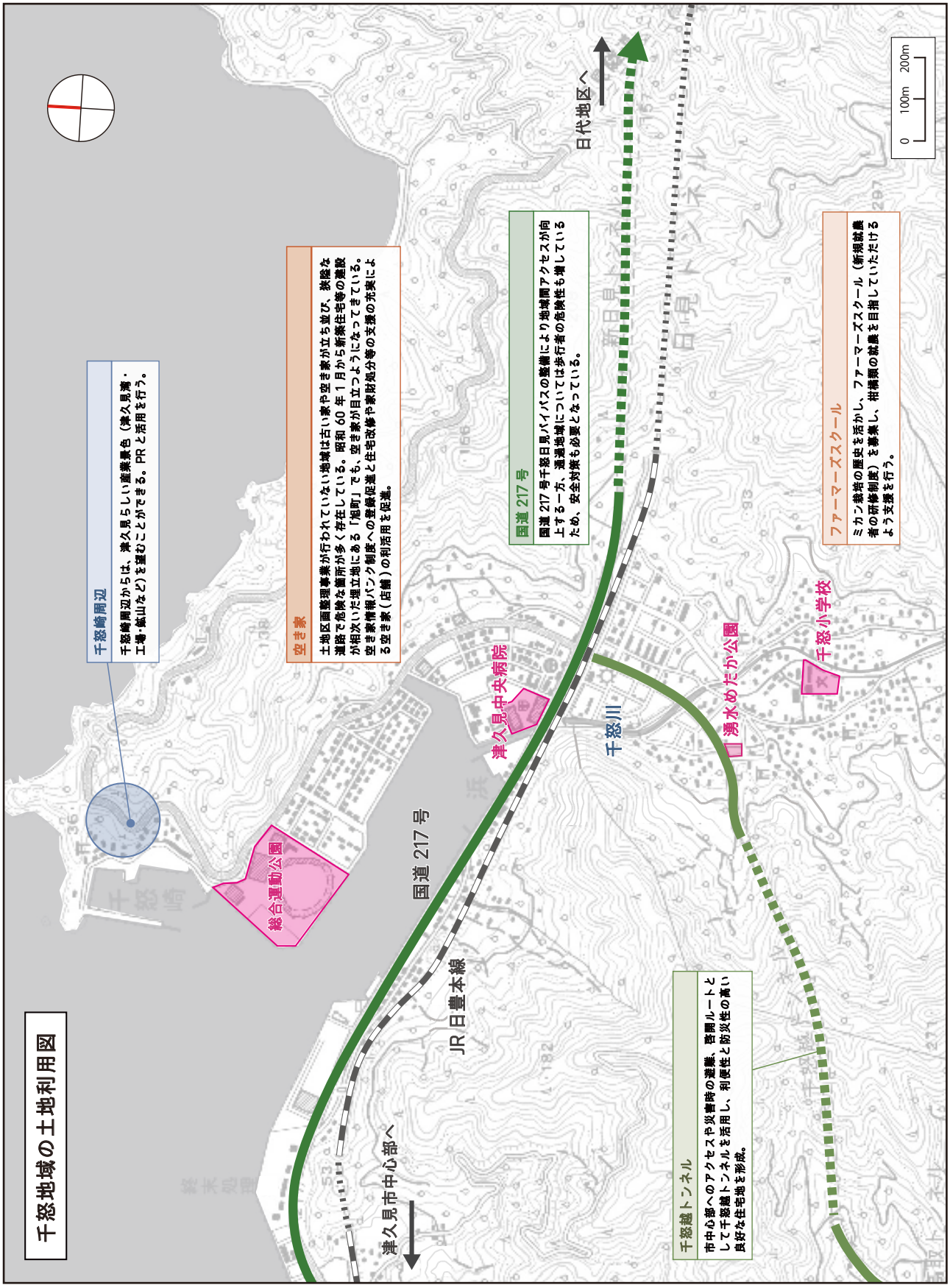
5）自然・産業景観の活用

- 千怒崎周辺から見える津久見らしい産業景色（津久見湾・工場・鉱山など）の PR と活用。
- 土地区画整理事業が実施された住居地域の落ち着いたまちなみ景観を維持。
- JR 日豊本線の鉄道風景の PR と活用。

6）住民主体のまちづくり

- 1 区 1 校区で発展してきた小学校区のつながりを生かした、住民参加による地域内交流や地域の魅力向上につながる美化活動等を支援。
- 千怒崎恵比寿大漁祭り、しめ縄祭りなどの伝統行事を後世に継承。
- ミカン栽培の歴史を生かし、ファーマーズスクール（新規就農者の研修制度）などを活用した就農支援。
- 地区社協、自主防災組織、防犯パトロールや交通安全などの活動により、安心・安全なまちづくりを推進。

千怒地域の土地利用図


千怒地域の土地利用図
千怒崎周辺
千怒崎周辺からは、津久見らしい産業景色（津久見湾・工場・鉱山など）を望むことができる。PR と活用を行う。
空き家
土地区画整理事業が行われていない地域は古い家や空き家が立ち並び、狭隘な道路で危険な箇所が多く存在している。昭和 60 年 1 月から新築住宅等の建設が相次いだ埋立地にある「旭町」でも、空き家が目立つようになってきている。空き家情報バンク制度への登録促進と住宅改修や家財処分等の支援の充実による空き家（店舗）の利活用を促進。
国道 217 号
国道 217 号千怒日見バイパスの整備により地域間アクセスが向上する一方、通過地域については歩行者の危険性も増しているため、安全対策も必要となっている。
ファーマーズスクール
ミカン栽培の歴史を活かし、ファーマーズスクール（新規就農者の研修制度）を募集し、柑橘類の就農を目指していただけるよう支援を行う。
千怒越トンネル
市中心部へのアクセスや災害時の避難、啓開ルートとして千怒越トンネルを活用し、利便性と防災性の高い良好な住宅地を形成。
総合運動公園
国道 217 号
JR 日豊本線
津久見市中心部へ
津久見中央病院
千怒川
湧水めだか公園
千怒小学校
日代地区へ
0　100m　200m

4 上青江地域

（1）地域の特性

- 津久見 IC が近く、大分市街地まで車で約 30 分と、大分市、臼杵市とのアクセス性が良好な地域。
- 青江ダム公園は、春先になると山々に山桜、園内にソメイヨシノが咲き誇る桜の名所。
- 本市で唯一海に面していない地域で、市中心部が被災した際は、消防庁舎、津久見市立青江小学校、県南かんきつ広域選果場が第二災害対策本部として機能。
- ミカンや山椒などの柑橘類や農作物の栽培が盛んで、中でも樹齢 800 余年になる国指定天然記念物「尾崎小ミカン先祖木」は日本最古の柑橘類の古木。
- 鬼丸住宅跡地の住宅地造成により、U ターン等の移住定住促進に期待。
- 青江ダムの機能により、地域住民の安心・安全を確保。
- 獅子舞 (川内・平岩地区) 等の伝統芸能も後世に継承され融和な地域コミュニティを形成。

青江ダム

青江ダム公園

鬼丸住宅跡地

尾崎小ミカン先祖木

（2）地域の課題

- 商業施設や診療所等の都市施設が少なく、生活利便性がやや不安。
- 山々に囲まれた地域で、崖崩れ等が発生する恐れのある急傾斜地危険箇所や土石流危険箇所が多く存在。
- 河川に近い避難場所 (川内公民館・岩屋口公民館・鬼丸会館) の安全性の確保。
- 少子高齢化等により人口減少が進行。
- 将来的な通院、買い物等の移動手段の確保。

（3）将来像と整備方針

ミカンや山椒などの柑橘類や農作物の栽培が盛んに行われているなど、豊かな自然が身近にある「上青江地域」の将来像として、「自然の恵みと美しさを引き立たせるまちづくり」を掲げ、以下に整備方針を示します。

>> 上青江地域の将来像

自然の恵みと美しさを引き立たせるまちづくり

1）交通ネットワークと都市基盤整備

- 県道津久見野津線の道路機能の維持のための働きかけを強化。
- 住宅地内の生活道路では、歩行者が安心して通行できるよう、歩行者空間の確保やバリアフリー化等、ユニバーサルデザインの考えに基づいた整備を推進。
- 小学校の通学路については、地区や学校関係者等と連携体制を構築し、児童の安心・安全を確保。
- 将来の人口動態、高齢化等による利用者ニーズを的確に捉えた、効率的な地域公共交通体系の構築を検討。
- 令和 2 年 10 月から運行を開始した、畑区における予約型乗合タクシーの利用促進。
- 県南かんきつ広域選果場と長野市営住宅周辺に都市機能を集積。
- 青江ダム公園の適正な維持管理、周辺地域の景観の保全に努め、山桜、ソメイヨシノ等の地域資源を生かした観光客誘致と地域住民の憩いの場として活用。
- 一方で、利用者の少ない公園は、管理手法等の見直しを検討。
- 公営住宅、下水道等の都市インフラの長寿命化を推進するとともに、下水道計画区域外では合併処理浄化槽の普及を促進。

2）都市防災

- 河川氾濫、土砂災害等の自然災害に備えた避難所・避難路の整備と合わせ、避難所表示や避難誘導標表示等設置の対策を強化。
- 浸水エリアにおける住宅や事務所新築の際の用地嵩上げを支援。
- 砂防、急傾斜地、河川などの整備を関係機関に働きかけ計画的な整備を促進。
- 自主防災組織による防災訓練、防災知識の普及・啓発等の活動を支援。
- 危険な空家等については、「空家等対策の推進に関する特別措置法」等に基づく取組を強化し早期の除却を推進。
- 第二災害対策本部となっている消防庁舎、津久見市立青江小学校、県南かんきつ広域選果場の役割強化。
- 河川に近い避難場所 (川内公民館・岩屋口公民館・鬼丸会館) は、災害情報、河川の水位等の的確な把握により安全性を確保。
- 畑区へ至る市道は、斜面の崖等の土砂崩れが懸念される危険箇所もあり、安全性向上に資する整備を検討。

県南かんきつ広域選果場

消防庁舎

3）遊休地（市有地・民有地）・施設等の利活用

- 鬼丸住宅跡地を活用した住宅地造成により、新築の夢をかなえる安価な宅地を提供。
- 長野市営 A アパートは老朽化が進んでいるため、解体除却、跡地の嵩上げ等により、事業所用地や住宅地等としての有効活用を検討。

4）空き地・空き家 (店舗) の利活用

- 空き家情報バンク制度への登録促進と住宅改修や家財処分等の支援の充実による空き家 (店舗) の利活用を促進。
- 空き地バンク制度の新設により土地利用を促進。

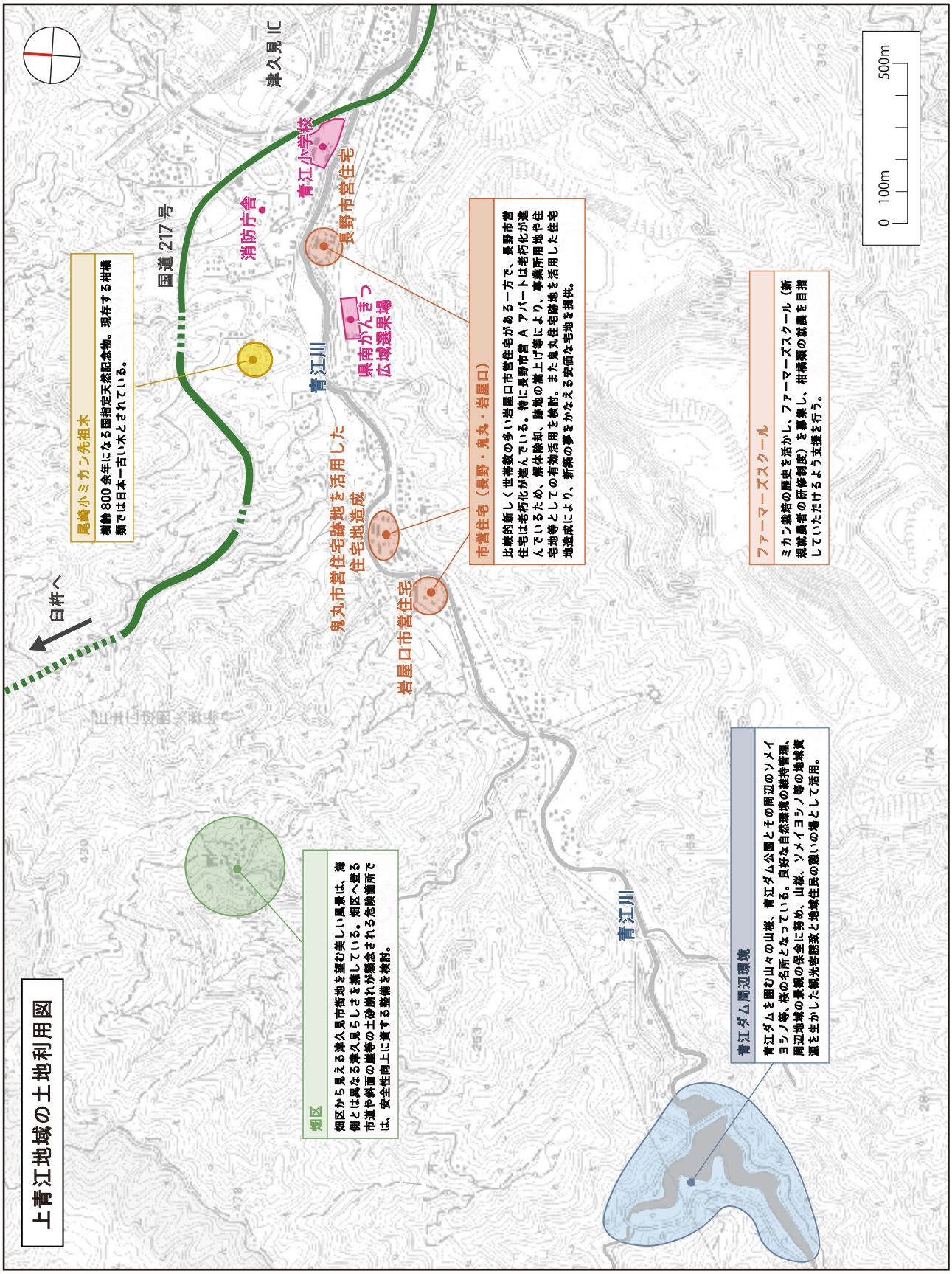
5）自然・産業景観の活用

- 海側から見る風景とは異なる畑区から津久見市街地を望む風景は、津久見らしい景観の一つとして PR し活用。
- 青江ダム公園や周辺地域の山桜、ソメイヨシノ等の魅力ある景観の PR と活用。
- 国指定天然記念物「尾崎小ミカン先祖木」の適切な管理と保全。

6）住民主体のまちづくり

- ミカン栽培の歴史を生かし、ファーマーズスクール（新規就農者の研修制度）などを活用した就農支援。
- 地区社協、自主防災組織、防犯パトロールや交通安全などの活動により、安心・安全なまちづくりを推進。
- 獅子舞 (川内・平岩地区) 等の伝統芸能を通じた地域コミュニティの更なる充実。

上青江地域の土地利用図



5 堅徳地域

（1）地域の特性

- 本市の基幹産業である石灰石・セメント関連産業が集積し、港湾・工場・鉱山が重なる全国でも稀有な景観を形成。
- 堅徳地域と市中心部をつなぐ市道道篭合ノ元線及び一般国道 217 号平岩松崎バイパスの開通により、交通利便性と安全性が各段に向上。
- 良好なアクセス性と医療施設、介護老人保健施設、小学校、保育園、郵便局等の都市施設の立地により、長目地域住民の生活拠点としての役割に期待。
- 地域行事や防災活動等を通じた地域コミュニティが発達。
- 自主防災組織による地震・津波災害時の一時避難場所を新設。
- 羽迫神社に伝わる祭礼行事の総称で、神楽、獅子舞い、長刀、棒術などが行われる「堅浦霜月祭りの芸能」は本市を代表する伝統芸能。
- つつじの名所で、西九州一の観音像がある海岸寺には、江戸時代に伊能忠敬が来訪。

港湾・工場・鉱山が重なる全国でも稀有な景観

豊後水道きらきらウォーク

徳浦交差点

徳浦の秋祭りの獅子舞

（2）地域の課題

- 狭隘な地区内道路が多く、緊急車両の通行も困難な状況。
- 商業施設が少なく誘致が必要。
- 堅徳小学校、堅浦公民館、徳浦公民館は海沿いに立地しており、津波発生時の避難経路の安全性の確保。
- 水晶山跡地の有効活用。
- 少子高齢化等により人口減少が進行。

（3）将来像と整備方針

本市の基幹産業である石灰石・セメント関連産業が集積し、堅浦霜月祭りなどの伝統芸能などが存在する「堅徳地域」の将来像として、「港湾・工場・鉱山の景観と文化を生かしたまちづくり」を掲げ、以下に整備方針を示します。

>> 堅徳地域の将来像

港湾・工場・鉱山の景観と文化を生かしたまちづくり

1）交通ネットワークと都市基盤整備

- 津久見 IC 及び国道 217 号と堅徳地域を結ぶ（都）長野堅浦線の早期整備のための働きかけを強化。
- 住宅地内の生活道路では、歩行者が安心して通行できるよう、歩行者空間の確保やバリアフリー化等、ユニバーサルデザインの考えに基づいた整備を推進。
- 小学校の通学路については、地区や学校関係者等と連携体制を構築し、児童の安心・安全を確保。
- 狭隘な地区内道路の拡幅を検討。
- 道路網整備により、公共交通の利便性を向上。
- 徳浦公民館、徳浦郵便局の周辺に都市機能を集積し、長目地域住民の生活拠点としての役割を強化。
- 公営住宅、下水道等の都市インフラの長寿命化を推進するとともに、下水道計画区域外では合併処理浄化槽の普及を促進。
- 利用者の少ない公園は、管理手法等の見直しを検討。

2）都市防災

- 津波、高潮、河川氾濫、土砂災害等の自然災害に備えた避難所・避難路の整備と合わせ、避難所表示や避難誘導標表示等設置の対策を強化。
- 浸水エリアにおける住宅や事務所新築の際の用地嵩上げを支援。
- 砂防、急傾斜地、河川などの整備を関係機関に働きかけ計画的な整備を促進。
- 自主防災組織による防災訓練、防災知識の普及・啓発等の活動を支援。
- 危険な空家等については、「空家等対策の推進に関する特別措置法」等に基づく取組を強化し早期の除却を推進。
- 津波避難所等の新設等の自主防災組織による先進的な活動を支援。

3）遊休地（市有地・民有地）・施設等の利活用

- 水晶山跡地の利活用は、関係事業者の意向や将来展望等を十分把握する中で検討。

4）空き地・空き家（店舗）の利活用

- 空き家情報バンク制度への登録促進と住宅改修や家財処分等の支援の充実による空き家（店舗）の利活用を促進。
- 空き地バンク制度の新設により土地利用を促進。

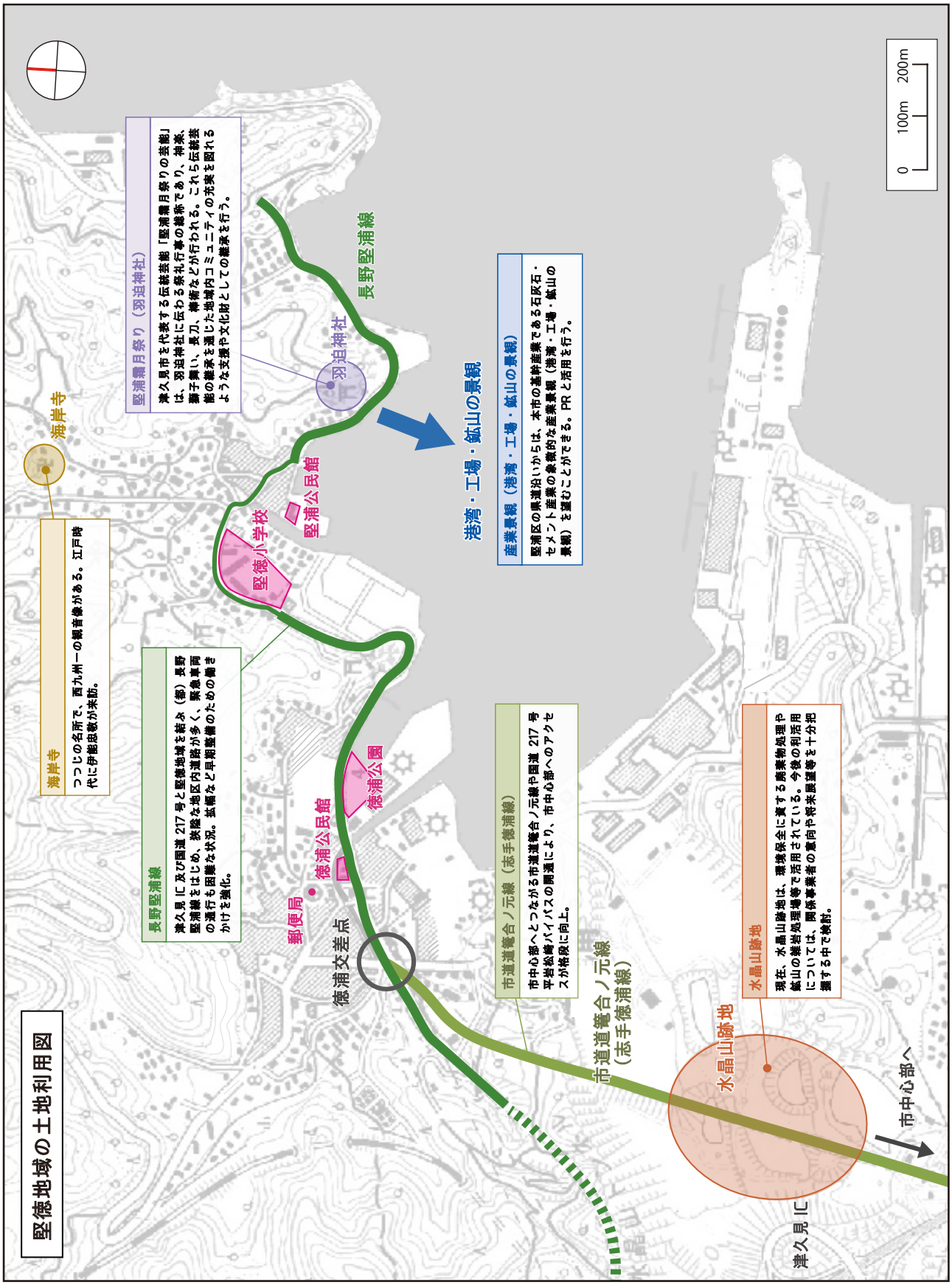
5）自然・産業景観の活用

- 全国でも稀有な「港湾・工場・鉱山」の産業景観の PR と活用。
- 本市を代表する伝統芸能である「堅浦霜月祭りの芸能」、つつじの名所海岸寺、特攻隊として出撃した中津留達雄大尉の墓等の地域の歴史・文化的景観の PR と保全。

6）住民主体のまちづくり

- 本市を代表する伝統芸能「堅浦霜月祭りの芸能」等を通じた地域コミュニティの更なる充実。
- 地区社協、自主防災組織、防犯パトロールや交通安全などの活動により、安心・安全なまちづくりを推進。
- 小学校区を通じたつながりを生かした、住民参加による地域内交流や地域の魅力向上につながる美化活動等を支援。

堅徳地域の土地利用図


堅徳地域の土地利用図
海岸寺
ここの名所で、西九州一の観音像がある。江戸時代に伊能忠敬が来訪。
堅浦彌月祭り（羽迫神社）
津久見市を代表する伝統芸能「堅浦彌月祭りの芸能」は、羽迫神社に伝わる祭礼行事の総称であり、神楽、獅子舞い、長刀、神輿などが行われる。これら伝統芸能の継承を通じた地域内コミュニティの充実を図れるような支援や文化財としての継承を行う。
長野堅浦線
津久見 IC 及び国道 217 号と堅徳地域を結ぶ（都）長野堅浦線をはじめ、狭隘な地区内道路が多く、緊急車両の通行も困難な状況。拡幅など早期整備のための働きかけを強化。
市道竈合ノ元線（志手徳浦線）
市中心部へとつながる市道竈合ノ元線や国道 217 号平岩松崎バイパスの開通により、市中心部へのアクセスが格段に向上。
水晶山跡地
現在、水晶山跡地は、環境保全に資する廃棄物処理や鉱山の維岩処理場等で活用されている。今後の利活用については、関係事業者の意向や将来展望等を十分把握する中で検討。
産業景観（港湾・工場・鉱山の景観）
堅浦区の県道沿いからは、本市の基幹産業である石灰石・セメント産業の象徴的な産業景観（港湾・工場・鉱山の景観）を望むことができる。PR と活用を行う。
海岸寺
羽迫神社
堅浦公民館
堅徳小学校
長野堅浦線
港湾・工場・鉱山の景観
郵便局
徳浦公民館
徳浦交差点
徳浦公園
市道竈合ノ元線
（志手徳浦線）
水晶山跡地
津久見 IC
市中心部へ
0
100m
200m